



開園当初から約50年間、子ども達を見守り続けた樹木をそのまま残し、建物は新しくなっても、そこで過ごした人たちの想いや記憶、景色がまた訪れた時にふわっと温かくよみがえるようなそんな園舎を目指しました。自然（風・光・匂い・音・感触）の素晴らしさを感じ、心穏やかに過ごせる園舎。その中心にはいつも子ども達がいいます。

この地域のこの場所に、この園が大本のようにあり続けることに大きな意味を持ち、自然の力と調和した建物であることを第一に考えました。出来上がった今、訪れた人たちは皆、「前からあったみたい」と言っています。虫や鳥、植物もいつものようにそこに存在し、子どもたちの笑顔も絶えません。細部にわたり、自然との調和にこだわったからこそその安心感のあふれる園舎になりました。

木漏れ日の中に春夏秋冬の四季を感じながらの生活、

寒い日もポカポカと温かい広縁、

雨や雪の日でも思い切り遊べる屋外広場、

明るい光をたっぷり取り込む部屋・・・

子ども達にとって居心地の良い空間があちこちにあります。

事務室の縁側では、子ども達が探った虫を見せに來たり、

そこで一緒に絵本を読んだりおしゃべりしたり、

まるでおばあちゃんに來た子ども達のようにです。

すぐに庭に遊びに行ける保育室、

作ってくれる人の顔が見えて匂いも感じられる給食室、

みんなに会える広縁・・・

自分で感じ、やってみたい、見てみたいと思った時にすぐ行動に移せるような時間と空間を大事にしている保育の中で、この園舎はそれを可能にしてくれます。

また、0歳〜6歳の子ども達が生活する保育園では、

お互いを感じあうことはとても大切です。

大きい子がしていることを見る、聞く、同じようにやってみる、

小さな子の面倒を見る、優しく接する、

そんな当たり前のことが当たり前にできることが幸せです。

年齢で生活が分断されるのではなく、同じ場所で色々な想いを共有し、育ちあい、お互いの存在を認め合うことができる優しい場所。

まるでひとつの家族（おうち）のような場所。

こんなにも贅沢な想いをすべて形に出来たことに感謝し、
本来の意味での目指すべき子育てとそれを可能にする園舎が

これからここにあり続けますように。